

名取市「震災メモリアル公園市民シンポジウム」が開催されました(2015/8/28)

テーマ：震災メモリアル公園
場所：名取市文化会館

現在、名取市の閑上地区では震災復興計画に基づく宅地開発が行われていますが、今後は沿岸部において震災メモリアル公園が建設される予定です。この震災メモリアル公園を地域の中でどのような場にしていったら良いのかを議論するため、8月28日に、名取市主催の「震災メモリアル公園市民シンポジウム」が開催され、約180名の方々が参加しました。シンポジウムは第1部の基調講演と第2部のパネルディスカッションにより構成され、災害科学国際研究所の村尾 修教授（地域・都市再生研究部門 国際防災戦略研究分野）は基調講演を行い、またパネルディスカッションのコーディネーターを務めました。

第1部は、まず脇坂隆一氏（国土交通省東北地方整備局の東北国営公園事務所所長）が「東日本大震災の復興祈念公園及び国営追悼・祈念施設」と題して、現在進められている陸前高田と石巻の公園の設計プロセスについて講演されました。続いて村尾教授は「都市復興におけるメモリアル空間の形成と街の再生」という題目で、記録・記憶・再生をキーワードに震災復興の意義や、今後の公園づくりの参考となるよう世界各地のメモリアル空間の実例を紹介していきました。

第2部では、「①震災メモリアル公園はどのような空間にすべきか」と「②閑上地区の交流人口拡大のために有効な取り組みは」の二つのテーマが設定され、閑上地区と関係の深い活動を行っている9人の市民をパネリストに迎え、それぞれの立場からの閑上に対する思いと、期待される震災メモリアル公園の姿について議論しました。その中で、追悼、安全性、子供達、防災教育、地域の活性化、水辺空間、記憶、閑上らしさ、将来に向けての継承などのキーワードが上がり、これから名取市が市民とともに震災メモリアル公園を具体化するための出発点となりました。

9月には、震災メモリアル公園を具体化するためのワークショップが予定されています。長い歴史と文化の残る閑上の、住民同士そして世代間の新たな交流拠点として期待されます。



閑上に完成した慰霊碑



基調講演の様子

文責：村尾 修（地域・都市再生研究部門）